

2009年7月号・季刊24号

ミンダナオの風

執筆編集*松居友 発行:ミンダナオ子ども図書館



ミンダナオの情勢は良くない

あちらこちらで起こっている爆弾事件
意図的に作られていく戦闘。

再び避難民が出た情報を受け

ビニールシートの支援に向かった。

去年の8月から、半年近く避難民だった
ミンダナオ子ども図書館の奨学生たちも

ようやくホッとして集落にもどり、

夏休みが終わって

学校に行こうとしている矢先だった。

前年の戦闘のトラウマから抜け出せるかなと

思った矢先、再び情勢が不安定になり出した。

ここ2ヶ月で、3度5地域での難民救済支援。

2000年、2003年、2006年、

2008年、そして2009年と、

もう5回の戦闘が起こっている。

そのたびに難民救済を開始するのだが、

こんな事をいつまでも続けていたら、

うんざりして、逃げ出したくなるだろう。

それにもかかわらず、性懲り無く人間が起こす

馬鹿げた戦闘に、

性懲り無く救済活動をする原動力はどこにあるのか

と自問すると、答えは一つ

その戦闘の中に、子どもたちがいるから

最初に変更とお詫び

前号の『スカラシップQ&A』で、6月にスカラシッププロフィールと季刊誌『ミンダナオの風』をお送りする予定でしたが、一ヶ月遅れてしまいお詫び申し上げます。

ピキットで戦闘が始まり、難民が出て救済したこと、その後、去年からの疲れが出たのか、松居友本人が高熱を出し、一週間近く入院療養しなければならず、その結果遅れてしまいました。今後は余裕を持って、6月のスケジュールを7月に変更して、プロフィールと季刊誌『ミンダナオの風』は、7月発送8月上旬にお届けできる形に変更したいと思います。

さらに、今までは、自由寄付やスカラシップを振込頂いた方々、物資支援を頂いた方には、奨学生たちの手書きの絵はがきをお礼と確認のために郵送していましたが、郵便経費を無駄遣いしないために、今後は、

【手書きの絵はがきを、年四回の季刊誌に同封する形】で切手代を節約したいと思います。

確認のお返事が、年四回だけになってしまいますが、お許しいただければ幸いです。

松居 友

ミンダナオは再び不穏に？

去年の8月、ミンダナオで中規模の戦闘が起こり、50万を超える避難民が出た。その時の様子は、季刊誌の22号でも紹介したし、生々しい映像は、報告会でも上映した。

(映像は、サイトで見る事が出来ます。検索(ミンダナオ子ども図書館))

それから約半年2月によく最後の避難民たちが村に帰り始めた矢先、6月22日、再び戦闘が勃発。避難民が出たという情報を受け、救済活動が始めた。今回の避難民は、MCLの奨学生たちもいるブアラン。去年は隣村のラガイエンが戦闘勃発のきっかけだったからほぼ同地区だ。

ブアランの子たちは、3月によくや半年以上の避難民生活を切り上げて家に帰ったところだから、3ヶ月たらずに再び避難せざるをえなくなったわけで、この3ヶ月は、フィリピンの夏休みだから、ほぼ一年間、休学せざるを得ないことになった。

里親およびスカラシップ支援の方々には、学年が重複して申し訳ないのだが、一年分の寄付は、彼等の救済費用に充てられていると解釈していただければ幸いです。

4月を初年度開始とすると、私たちはすでに3度の避難民救済活動をした事になる。これらは、小規模な戦闘であるがゆえに、かえって地元の行政も、



ウェブサイトが充実しました!

新サイト「ミンダナオ子ども図書館：日記」を始めました。2009年度の決算報告もご覧下さい。

今までの「ミンダナオ子ども図書館だより」は、月二回の割合で更新していく、写真中心の活動報告でしたが、新しく日記風に、思索や記事を読める、「ミンダナオ子ども図書館：日記」を始めました。

「ミンダナオ子ども図書館：日記」や、映像をご覧になりたい方は、検索「ミンダナオ子ども図書館」の「ミンダナオ子ども図書館だより」から「映像による活動紹介・2008年」「ミンダナオ子ども図書館：日記」でご覧になれます。



政府も救済支援をしておらず。ミンダナオ子ども図書館だけが、彼等の唯一の支えであった。

まずは、シートの提供を開始

5年間の戦闘地域での活動経験がここでも役に立った。避難民が出てからほぼ数日以内に地域情報を獲得、すぐに現地調査を実行し、その結果を持ち帰り翌日朝には緊急のミーティングで活動を実行に移す。状況が悪く、現地の家族や子どもたちが雨に打たれているような場合は、即刻その場で決断し行動を起こすこともあった。



戦闘が起こり不可抗力で避難民化せざるを得なくなった人々。家財道具から家畜にいたる全てを置いたまま、蒔きつけたばかりの畑を放棄せざるを得なくなった人々の意気消沈はいかばかりか。

せっかく学校に戻れると期待して集落に帰った子どもたちの失望は、言葉では言いあらわせないものがあるろう。

特に熱帯は、乾燥地域と異なって雨が長く、数日以内に雨よけのシートが支給されるかどうかは、子どもやお年寄りの病気を含めて大きな違いをひき起こす。今回は避難民たちは、二晩から三晩野外で寝ただけで、ミンダナオ子ども図書館の救済支援で人心地をつけることが出来たのであった。

さらに読み語りを開始

そうした時に、読み語りは、気持ちを高揚させていく上でも効果的だ。それともう一つ、これら一連の救済活動を、種族や宗教の違いを超えて、現地の若者たちが計画し、協力しながら推進していく。そのことに、大きな意味があると思う。

写真からもわかるように、百メートルもあるシートを、6メートル単位に切っていくつらい作業を、あつという間に、生き生きとこなしていくのも奨学生たちだし、読み語りも当然彼等が中心になっている。

絵本を素材にして語ることもあるが、現地のお話を素材で語ったりもする。



医療活動も開始

医療活動には、二つの形態がある。一つは救済医療である。避難民救済や読み語りで行った場所で、病気の子どもを見いだした場合に、早急に病院に運び検診を受けさせ、場合によっては即入院させる。

もう一つが、メディカルアウトリッチといって、あらかじめ医師と日打ちを決め、大量に薬を購入し、集落に行き、検診と同時に処方を出す。薬を与える程度で病院に運ぶほどの事はないケース。

私たちは、現地におもむき、現状を把握して、どの形態の医療支援が良いかを判断して実行する。今回は、救済医療で、高熱を出していた4人の子どもたちと、足のタダれた皮膚病の少女、そして胸に瘤の出ている男の子を救済した。

高熱の子が多発

それにしてもここ数ヶ月の医療費は鰻登りだ。

医療活動は、予算をたてているものの、最も予想困難な活動であり、本格的な病気の子の救済は、経費がかかり、国際医師団のようにお金がある団体がバックについていて支援活動に乗り出すのならまだしも、小さなNGOが最



も嫌う？活動であることが現地で次第にわかってきた。

戦闘が頻繁に起こり、国勢的なNGOが頻繁に活動するこの地域でも、患者を病院にまで運ぶような緊急の医療活動を行っているのは、何とミンダナオ子ども図書館以外には無いと言って良い。かの赤十字もこの地での活動は、水と米の提供に限られている。確かに、水質の悪い地域では病気が発生しやすく、予防的な医療効果は期待できるのだが・・・あくまでも活動対象はマス(大きな大多数)であって、とことん個人を面倒見るような活動は、その性格上出来ないのだろう。

しかし、ミンダナオ子ども図書館の活動方針は逆にとことん個人に、しかも長く関わっていくやり方なのだ。

医療というのは、何故か患者が少ない時と、次から次へ、患者が運ばれてくる時期がある

今回は、恐らく新型インフルエンザとも関係があると思われるのだが、何と20名あまりの奨学生が40度あまりの高熱を出し、次々と病院に運ばれた。外部の患者を加えるとかなりだ。

しかし、熱や外傷のように、はっきりしているケースの場合は、診断も容易で治療も数日で完治していくケースもあるのだが、患部が見えないケースの場合は、数ヶ月から数年のアフターケアを必要とする場合もあり、そのような奨学生も数名いる。

左と下の写真の子たちは、高熱で病院に収容された子たちだが、5日間ほどの入院治療で完治した。



左の二枚の写真は、ともにピキット出身だが、奨学生のカキムさんのケースなども足に瘤が出来て急速に膨らんでいき歩行が困難になり始めた。これらのケースは、癌の疑いもあり、CTスキャンを始めとしてかなり高度の診断と手術が必要である。戦闘地域に多い奇形が、劣化ウランの影響でなければ良いがいつも思う。

ここの一ヶ月あまりで、ミンダナオ子ども図書館の医療予算は、10月分まで消費してしまった

医療支援は、たえず必要とされているし、最も個人に喜ばれる支援なのだが、治療開始から完治を見届けるまで、





何度も繰り返し医師の元に通い続けなければならぬ、NGOとしては経費や手間もかかる割に効率が良くない支援だと聞く。寄付者への報告上、一人の子どもを病気から救うよりも、どれほど多くの人々に支援を届けられたかという数字が先行するからだろうか。

ミンダナオ情勢に関して

コタバトのカトリック教会前で爆弾が炸裂し死者とけが人を出したニュースが世界を駆けめぐった。この事件に関する、私自身の見方と見解はサイトの『ミンダナオ図書館・日記』にも書いてが引用しながら論じたい。

コタバト市のカトリック教会前の豚丸焼きレストランでの爆弾事件は、はつきりした意図は、あえてこの事件をカトリック教会の近くで起こすことにより、人々の目をイスラム対キリスト教という対立の構図に向けさせる事だろう。

豚の丸焼き店をターゲットにしたのも、イスラム教徒は豚が嫌いだからそこを攻撃するのは当たり前だというイスラム教徒とMILFの仕組んだ事件に仕立て上げるのに都合だからだ。現地を知らない人々が、記事を読むと、あたかもミンダナオ全域でイスラム教徒とクリスチャンが対立して争っているように感じられるだろう。

この事件が、BBC、CNN、NHKなどを通して全世界に流れた事を考えると、これを計画した第三者の意図は、完璧なまでに達成されたと言える。日本の新聞でも、ネット上に11社が掲載している。

その中でMILF側の主張「国軍はイスラム反政府勢力『モロ・イスラム解放戦線(MILF)』の関与を指摘しているが、MILF側は否定している」件、つまり反政府側の発言をわざわざ取り上げていているのは、日経、毎日、産経、クリスチャントゥデイであり、他の紙は、MILF側の反応にまったく言及無く、国軍または警察の発表のみに報告が偏っている。朝日、読売、世界日報がこれであり、どの紙を読むかによって多少ではあるが受け取り方は違ってくるだろう。

これらの中で、興味深い指摘が二つある

一つは、毎日の記事で、爆弾の仕組

みに触れられており、「爆弾は軍の砲弾が使われ、携帯電話で起爆させる仕組みだったという」という記事が掲載されている。軍が仕掛けたとは書いていないが・・・これは、一般的なミンダナオに住んでいる人々が、心の奥にしまい込んでいる気持ちを代弁しているとも言える。

携帯電話で起爆させる仕組みだったと言うのは、クリスチャントゥデイも言及している。

「目撃証言などによれば、爆弾は路上に並んでいた屋台付近に置かれ、遠隔操作で爆発したと見られている。警察は爆発の崔に携帯電話を使用していたことが目撃された男を逮捕。男は偽名のパスポートを3つ所持していた」警察の発表だとすると、パスポートの件で、国際テロ組織(たぶんアブサヤフ)の関与を指摘したいのだから、それが真実か、あえてこの男が犯人だとしても真実が出てくるかは異論のあるところだ。

アブサヤフは、赤十字の職員なども誘拐しているが、よく見るとその動きはMILFとちぐはぐであり、このアルカイダ系組織の背後には謎が多い。

クリスチャントゥデイは、カトリックのオランダ司教の発言にも触れている

「コタバト大司教区のオランダ・ケペード大司教は地元メディアに対して、『攻撃があった教会は、(爆発を起こした)犯人に対してできえ、避難所である場所だ』『爆発が起こったとき、人々は礼拝していた。これは単なる罪ではない、神への冒瀆だ』と強く批判した。」

一見、オランダ司教は、イスラム組織を強く批判したと解釈されそうな文言だが、これは『(爆発を起こした)犯人』に対しての批判であることを見誤ってはならないだろう。

オランダ司教は、私も会ったし良く知っている。OMI(カトリック教会の一つオブレード会)の司教で、この宣教会は、最も困難とされる地域

スカラシップ里親支援 8月まで受け付けています。

今年度のスカラシップと里親支援は、8月まで受け付けています。ご希望の方は、同封の振替用紙のスカラシップまたは里親支援の項目にチェックを入れるか、通信欄にスカラシップまたは里親希望とお書きにお振り込み下さい。

暫時紹介させていただきます。Eメールの場合は、即時ご相談させていただきます。

8月以降は、来年度とさせていただきます。



に向かう会派で、ミンダナオでは、イスラム教徒を最も多く救済している会派で、戦前からの活動履歴も長い。殉教者も多いが・・・去年の戦闘時には、国際支援が欠乏している困窮した地域の避難民を独自に救済しているし、当然ながらMILFとも深く繋がりを持ちながら活動している。

2000年、空爆で、避難民キャンプからも外されて困窮しているマカプアルの子どもたちを爆撃の中に飛び込んでいって救ったピキットのライソン神父もOMIである。その時にミンダナオ子ども図書館のボードメンバー・グレイスさんが同行している。

去年、ミンダナオ子ども図書館は、このナカプアルに日本政府の草の根支援を受けて、小学校を建設した。



ライソン神父は、僕も避難民救済現場でたびたび会っているが、昨年バチカンに呼ばれた。

(この前後に、ライソン神父は、戦闘におけるイスラム教徒弁護の提言をフィリピン政府にしているのと、その後の教皇のイスラム諸国訪問と発言が始まったことで、恐らく参考人として招へいされたのではないか。)

その後、ライソン神父は帰国し、現在は、最も複雑なイスラム自治区のダトゥピアンの教会に派遣されている。

OMIは、ミンダナオのイスラム教徒地区に最も奥深く入り、イスラム教徒からも信頼されているカトリック宣教会である。とりわけ、第二次世界大戦中、日本軍に対する抗日戦線を盟友として共に協力して助け合った話は、今も語りぐさになっている。

オーランド司教も、その立場上、発言はつねにイスラムの人々の気持ちを考えて行う人であるから、そうした経緯や背景を知っていれば『攻撃があった教会は、(爆発を起した)犯人に對してでさえ、避難所である場所だ』『爆発が起ったとき、人々は礼拝し

クリスチャントゥデイの引用は前後が端折られていて行間が読めないが、そうしたOMIとイスラム教徒との長年の経緯を知っていれば、オーランド司教が「犯人に對してでさえ、避難所



ていた。これは単なる罪ではない、神への冒瀆だ」という発言の真意は、単なるMILF批難ではないのは、現地の人々にはすぐに理解できる。

こうした比較的急進的に見える活動をしている(当たり前の活動だが)カトリック宣教会は、ミラノ宣教会などいくつかあり、先住民族やイスラム教徒と深い繋がりを築いており、その点から逆に、保守的なカトリック会派や、時には軍や警察に目をつけられている事は現地でも良く知られている。

ミンダナオ、特にコタバト周辺の人々の識者の見方の一つに、「爆弾テロ」というのは、必ずしも反政府勢力の仕業とは言えないようだ」という、身近な経験から生まれた嗅覚がある。

持っており、キダパワンのラジオ局もそうであるが、体制に批判的な発言をした解説者が殺されている。

フィリピンのジャーナリスト殺害はアムネスティも抗議している。私も危ないかもしれないが、その筋の人から外国人だから殺しにくいだろうと言わ

「その後私は、コタバトのMILFに近い友人にカトリック教会の爆破の感想を聞いたが、彼は「教会もイスラム教徒のモスクと同様に」神に対する人々の神聖な祈りの場であり、その近くで爆弾を炸裂させる行為は許されるものではない」とオーランド司教と同様の意見を述べていた。

オーランド司教の犯人像には、キリスト教徒も入っているとも言えそうだが、現地の人々なら、大司教の発言を恐らくそう解釈するだろう。

である」と言う言葉が、MILFを直接指し示すのではなく、「意図的に教会を憎しみを煽るための道具として利用した犯行の卑劣さ」そのものに対する批判であることが感じられる。

その後私は、コタバトのMILFに近い友人にカトリック教会の爆破の感想を聞いたが、彼は「教会もイスラム教徒のモスクと同様に」神に対する人々の神聖な祈りの場であり、その近くで爆弾を炸裂させる行為は許されるものではない」とオーランド司教と同様の意見を述べていた。





世界の経済が良くない。アメリカを中心に、先進国と呼ばれた国々の経済崩壊は、世界における貧富の格差

ミンダナオ情勢の今後の展望

まずは、大局から見ていこう。

MILF peace panel chair Mohagher Iqbal told the journalists in a forum morning of July 1 that they “do not have the motive to do that (bomb Moro areas).” “As for bombings in Christian areas, as a revolutionary organization, among mapaapala namin? (what can we achieve by that?) Can we get sympathy from international community? From the people? Will those bombings contribute to the popularity and legitimacy of the MILF?” Iqbal asked.

れている。ただ、事故に見せかけることは可能だ。最後に、ミンダニューースで掲載されている、MILFピースパネルが記者会見で発表した発言を参考のために原文のママ引用しておこう。

を助長している。

製造業は、中国やインドを除いて疲弊が目立ち、金融が崩壊しかけている今、アメリカに残るのは軍需産業のみと言つて良い状況だ。この軍需産業には、日本の製造業も貢献をしている。ここで大きな戦争でも起こつてくれないか、と言う期待と、あくまでも平和を築こうと願う勢力が、世界でもミンダナオでも拮抗しているようだ。

今年の3月、ピキットでも米軍指導でかなり奥に至るまで砂利をひく整備があつた。当時、停戦監視団の菊池さんから、「道路の整備だけは、(開発支援とは)別の意味を持っていますね」と言われた意味をどう解釈したらよいか迷つたが、現地では道路補修は、次の戦闘への準備だと言われている。

そして、今回、6月から7月に入りミンダナオ各地で次々に爆弾事件が起こつている。過去の経験から言えることは、爆弾事件が起きる頻度と範囲により、戦闘の勃発とその大きさが推測できる。つまり、爆弾事件は、人々の反イスラム感情を高めるための手段なのかもしれない。

今回のカトリック教会前の豚丸焼き店の爆弾事件は、現地の人々の意識では、広島で暴力団の抗争があり死者出た、程度の感覚だが、世界中で報道されたことを考えると、背後により広範囲なもくろみを感じざるを得ない。場合によっては、世界情勢と関わつてく

るのかもしれない。その片棒を担ぐのがマスコミの役割である。去年の流れを見ていても、最初は、疑問を呈する中立的なマスコミもあるのだが、時間と共に、対立を仰ぐ一本調子の論調が幅を占め始める。

世界経済崩壊を受けて、ミンダナオでも貧富の格差が広がってきている

食糧や燃料(バイオを含む)、石油鉱物資源確保などを目的とした海外資本による土地の買い占めや、資本家による収奪も激しさを増している。

こうした問題をさらに複雑にしているのが、来年予定されている総選挙だ。現職アロヨ政権は、再選を目指して、大統領制を廃止、首相内閣制に移行しようと考えており、うまくいかない場合は、ミンダナオ紛争をきっかけに戒厳令を出し、全権を掌握する動きもあると聞く。

相次ぐ爆弾事件により、7月14日に予定されていた、日本政府によるマカプアルの小学校開設式も、再び延期された。日本政府も日本人の入国に警告を出している。ピキットの情勢も不安定で、いくつかの保育所の建設は、再び延期されるか地域を代えて行うしかなくなっていく。

今回の避難民救済のうちに、DSWDの某氏が軍関係者に訪ねたところ、今回の戦闘で軍は、3ヶ月分の「お弁

当(食料)を準備しているという話が出た。さらに、コタバトの爆弾事件の当日、海軍が港で大量の武器を荷揚げしたと言う話もある。

つまりミンダナオ情勢は良くない。恐らくこの状況は、来年の総選挙あたりまでは続くのではないだろうか。

場合によっては、世界で大きな戦争が起こるとしたならば、世界の覇権構造が変わるまで続くのかもしれない。

しかし、どんなに戦闘が激しくなり、例えば私が国外に一時避難せざるを得なくなったとしても、MCLはスカラシップの若者を中心にして、救済支援活動を続けるだろう。

元奨学生で今はスタッフとなっている若者たちは、それほど自立してしっかりと運営活動しているし、会計経理も含めて頼りになる。



Mindanao Children's Library Foundation, Inc.

貧しいからといって、必ずしも不幸とは限らない
私たちの生活の方が、豊かな国の人々の生活よりも
はるかに美しいと感じるときだってある。
けれども、どうにもならないのが、
お金が無くて学校に行けないときと
病気になっても病院に行けないとき・・・



ミンダナオ子ども図書館：支援方法

1、医療や読み聞かせ活動を支援して下さる方々へ・・・自由寄付

専用の振り込み用紙をご請求いただくか、下記の振替口座をお願いいたします。

寄付をいただいた方々には、若者たちの手描きのお礼の絵葉書と、ミンダナオより年四回季刊誌「ミンダナオの風」をお送りしています。

2、大学生高校生スカラシップ支援の方へ・・・年額60000円（月額5000円）

振り込み用紙の通信欄に「スカラシップ」と書いて、一部振り込んでいただければ、手描きの絵葉書を確認のためにお送りいたします。

3、里親支援（小学生）・・・年額24000円（月額2000円）

振り込み用紙の通信欄に「里親」と書いて、一部振り込んでいただければ、手描きの絵葉書を確認のためにお送りいたします。

スカラシップと里親支援は、年四回手紙や手書きクリスマスカード、写真、プロフィール、成績表などが届きます。文通可能、現地に来られた場合は本人の家庭までご案内します。詳しくはウェブサイト（ヤフー検索：ミンダナオ子ども図書館）

4、保育所建設支援・・・30万円（分割可能）

振り込み用紙の通信欄に「保育所建設」と書いて振り込んでいただければ、手書きの絵葉書を確認のためにお送りいたします。

郵便振替口座番号 00100 0 18057
加入者名 『ミンダナオ子ども図書館』

三菱東京UFJ 久我山支店 普4599499
ミンダナオ子ども図書館：日本事務局 山田順子

連絡先

現地携帯：(001010-63)- (0)9219603640（松居友）

日本滞在中の松居友セルフオン：08055023446

現地 Tel Fax: (001010-63)- (0)64-288-5621

好評のメールニュース（無料）をご希望の方、松居個人にご連絡くださる方は

Eメール：mclstaff@zar.att.ne.jp

ウェブサイト ヤフー検索：『ミンダナオ子ども図書館』

日本事務局：東京都杉並区久我山2-13-4-201

Tel：090-1201-8296（山田順子）

FAX：03-3247-4409

Mindanao Children's Library：Brgy. Manongol Kidapawan City Cotabato 9400 Philippines